

函館市観光アドバイザー会議 第1回第一部会 会議録

- 1 日 時 平成17年10月6日(木) 15:30~17:25
- 2 場 所 市庁舎7階 第5応接室
- 3 参集者
 - ・星野部会長，番匠委員，河内委員，内村委員，古川委員，石田委員，二本柳委員
 - ・報道機関(道新，函新)
 - ・事務局(坪谷室長，池田主査，寺澤主事)

4 内 容

(1) 開 会

(2) 資料説明 **池田主査**

河内委員

- ・資料によれば湯の川の宿泊数が137万人とあるが，温泉旅館組合で押さえている入湯税からの宿泊数は153万人である。その差は何か。この数字で公表もしているの確認して欲しい。

池田主査

- ・日帰り入浴を入れると、その数字になる。宿泊ベースではこの数字に間違いはないと思う。後日確認する。

(3) 部会長挨拶 **星野部会長**

(4) 討 議

星野部会長

- ・前回のアドバイザー会議を受けて，部会のテーマを決定するということでしたが，ご意見から大きく4つのテーマ，湯の川温泉街活性化，コンベンション，ひとづくり，情報化に集約されるのではないかとということで，私と根本部会長と番匠座長とで意見の一致を見たところです。
- ・湯の川温泉街活性化とコンベンションがハード系かなと思います。まあ，ハード，ソフトにきっぱり分けることはできませんが，このような分担でやりたいと思いますが。よろしいでしょうか。(了承)
- ・まず，湯の川温泉街活性化ですが，同時併行で「湯の川温泉街活性化推進懇談会」でかなり細かな議論を進めている。(懇談会での検討報告)
- ・前提問題として，どういう問題を抱えているかということ，宿泊客が激減している。(函館は微減)その理由として，顧客の要望の変化に湯の川温泉が対応

していない。

- ・また，函館観光の中で，宿泊地としてしか（受け身として）存在してこなかった。温泉街としての魅力を探求してこなかった。
- ・市民がどんどん来られるような場所になっていない。周辺の海岸などの自然環境をもっと強くアピールする必要がある。

番匠委員

- ・問題点が色々あるはずで，枠にとらわれずに各自が思っていることを自由に話してみてもどうだろうか。それを集約した方がまとまっていくのではないだろうか。
- ・温泉地としてのイメージがない。泊まってもちょっと出ていくような場所がない。湯の浜公園ぐらいだ。
- ・熱帯植物園についてはNPOでいろいろやっているが，水道局の方にはネーミングを換えて欲しいと言っている。というのは熱帯植物が少ない。施設が老朽化して冬になると10以下になってしまい，花はそこら辺に咲いているような花しかない。
- ・猿山の猿は春先に行くと親子の関係がいつまで見てもあきないが，増えすぎると困るので，妊娠しないようにコントロールしている。だから小猿がきわめて少ない。
- ・それとやっぱりニオイがきつい。猿山はNPOの所管ではないのだが任せてくればやると言っている。もうちょっとこまめに掃除する必要がある。
- ・遊歩道の整備についてだが，海岸護岸の後ろに実は1mぐらいの遊歩道がある。ところが，昆布乾し場になっており歩くと怒られる。やはり，朝，ホテルの裏を歩けるというのはすごくいいことだと思う。

星野部会長

- ・海岸への出口がない。水産試験場の方まで行かないとない。
- ・ここから入れますという看板もない。
- ・函館山を見ながら砂浜を歩けない。

河内委員

- ・ホテルの裏側を観光客にうろうろされると困る。（部屋の露天風呂や浴場の中が見えてしまう）

- ・ホテルから湯の川漁港まで歩けるような整備をお願いしている。
- ・また、湯の川漁港に、函館山や海を眺めたりする場所や、例えば温泉組合のプレジャーボートを係留できるようお願いしているのだが、漁業関係者を除き公募の中から抽選となっては困る。まあ、湯の川の要望だから検討するとは言っていたが。

二本柳委員

- ・湯の川温泉は街中にある温泉街だから、街との連動をもっと考えた方がよいと思う。そうしたとき、大森浜がキーワードとなるように思う。素晴らしい景色と美しい浜辺があるのに、護岸があるために波にふれに行くことができない。
- ・沖合50mに離岸堤を置くと砂が付く。根崎などはもう付いている。湾全体に人工の珊瑚礁リーフのように作ると、大森浜までずっと砂が付き、ベニスビーチからサンタモニカまでのような砂浜を再現できると思う。そして人が歩くくらいの遊歩道があると美しい景観になり、そこから色々なものが生まれている。是非やるべきだと思う。

番匠委員

- ・実は計画では住吉漁港のところまでやることになっている。予算的に毎年1基作れない状態だ。あと十数年かかると思う。

星野部会長

- ・誰のためにやるかで予算の付き方も変わってくると思う。土木的なものから、海岸を整備し、景観をよくして観光客や市民に喜んでもらうとなると予算の出どころも違ってくるのではないか。

番匠委員

- ・護岸は道路の保全のためにやるので開発建設部で、砂をつけるため離岸堤をいれるのは道。目的（出発）が違うので難しいと思う。

二本柳委員

- ・あの護岸堤を取ってしまうことはできないのだろうか。上磯なんかは傾斜護岸でやっています。目の前に海がある、さわれるというのは重要なことだと

思う。

- ・湯の川から啄木公園までだといいジョギングコースになる。湯の川に泊まれば自然とふれあえるというのは売りになるように思う。東京でも、外国人がホテルに宿泊してジョギングをしている。

内村委員

- ・湯の川温泉で市民に対する利用策は何かあるか。以前にやっていたようだが、なぜなくなってしまったか。
- ・湯の川温泉の湯量は十分なのか。他に掘れるのであれば、足湯や外風呂など大きな事業の可能性が出てくると思うが。

河内委員

- ・前段の話については、市民のマナーの悪さにつきると思う。旅館の方が善意で無料解放などしても、めちゃくちゃな人が出てくる。ゴルフボールが女子風呂に入ってきたり、お風呂場から玄関までべちゃべちゃにされたとか裏話はいろいろあった。
- ・無料でやったのも悪かったのかも知れない。
- ・湯の川の温泉街ではもう掘れない。かえって我々は、他の市内で勝手に掘れないようにして欲しいと市に問いかけはしているが・・・。
- ・前は湯の川温泉と駅前のホテルは住み分けができていたと思っていた。が、今、温泉付きのビジネスホテルが出てくると話は違ってくる。
- ・観光協会に対しても、これまで函館をPRすることが湯の川への客も増やすことだと思い、人も金も出してきたが、どんどん外資が入ってきて応分の負担をしているならまだしも、そうでないならば、今後湯の川へのお客を来させるためにお金を使った方が良くはないかとも思う。

二本柳委員

- ・誰（個人）が掘ってもいいとはならないが、湯の川温泉が自ら湯量が足りないため掘るのならば掘ってもいいのではないか？

古川委員

- ・いいえ、湯の川温泉区域は誰が掘るのでも規制されている。エリア外なら誰でも掘っても良く、あとは深さの問題で、深いか浅いかの差だけである。漁

り火館はエリアが外れている。

池田主事

- ・ ちなみに道内の主要な温泉地域は全て規制されている。湯量が減っているというわけではなく、過剰に掘らないように制限をかけているもので、道の管轄である。

河内委員

- ・ 湯量が減っていると言うよりも、従来通り出なくなってきたので大きいポンプにしたいが、その交換が許されない。これまで以上の性能のポンプをつけることができないということである。

星野部会長

- ・ 湯量に対して部屋数を大きくしすぎたということはないか。

池田主事

- ・ 供給先は減ってきているので、そのようなことはないと聞いている。

二本柳委員

- ・ 市民に無料で開放したことがあったが、私は反対であった。金を払って入りに来ている観光客がいるのに冗談ではないと思った。
- ・ 湯の川温泉として、お客を分けるということが必要だと思う。
- ・ ただ、銭湯がなくなってきているので。谷地頭のように市営の温泉があってもいいのではないかと思う。

古川委員

- ・ 湯の川には、まだ銭湯がいくつもある。

河内委員

- ・ 植物園のところに市民も観光客も入れるような大浴場（第一滝本館よりも大きな）を市が作ってくれれば、各ホテルが外湯をして、循環バスを出すことなどは湯の川温泉がやってもいいと提案している。

古川委員

- ・市民が温泉に入りたいと思えば銭湯で温泉がある。ただ以前に市民が希望していたのは、ホテルの中を見たことがなくどういう施設か見てみたいと云うことで無料開放したら、行儀の悪いやつがいてめちゃくちゃにしたので、企画がなくなった。

内村委員

- ・無料でやるとなかなか難しいところがあるが、何とか市民とのつながりをもって欲しいなと思う。

河内委員

- ・我々が希望しているのは、市民会館の改修をしてコンベンションホールにして欲しいと思っているが、それが無理なら植物園のところに多目的ホールを是非造って欲しいと考えている。
- ・二本柳委員に聞きたいが、例えば2500のホールを造った場合に、時として500人づつ4つに区切って使用することはできるのだろうか。

二本柳委員

- ・今函館に求められるホールは、シアター形式ではなく、アリーナ形式だと思う。使い勝手もいいと思う。コンサートにしても、ドームでコンサートができるくらい音響技術が発達しているのでアリーナでも十分行える。
- ・核となる一つ大きなのがあれば、小さいのは各ホテルでもある程度対応できると思う。

星野部会長

- ・自然にコンベンションの話に移行したが、湯の川の問題としては、市民の取り込み、海岸の有効活用などが話題になりましたが、ほかにあればお話しください。

二本柳委員

- ・温泉街の「顔」が見えないですね。

河内委員

- ・実は看板の議論も，相当してきた。国道，道道は絶対だめで・・・。

(サインの問題だけでなく)

二本柳委員

- ・海辺と温泉街を国道が分断している。本当は国道をアンダーパスなどにする
と温泉街としての街区作りができる。

古川委員

- ・個人住宅がこれほど張り付いていれば無理だと思う。これまでは，河内委員
が言ったとおりで，サイン作りが難しく，そのため北海道で一番宿泊数が多い
のに認知度が低いということになってしまう。

二本柳委員

- ・大沼で国道に建てている看板の裏面を利用しているが・・・。

(規制緩和してきているのだろうか。)

星野部会長

- ・だからこそこういう部会があり，そういう必要なことを言い続けなければな
らないと思う。
- ・コンベンションのさわりでも討議したいのだが，いろいろなコンベンション
があるなかでそれが観光に結びつくと思う。こういう施設が必要だとか，ど
ういうふうに運営，情報発信していくのかなどが課題になってくると思う。
受け入れについてもキャパシティが増えると潜在的に需要はあると思う。今
更箱物といわれるかも知れないけれども，でもやっぱりあったらいいなとい
う議論は必要だと思う。

番匠委員

- ・内村委員のところで，全国的な開催場所と件数と規模の1年間のデータがわ
からないものか。
- ・どのくらいの需要が見込めるかという基礎資料にしたい。例えば2500人
規模のコンベンションが10年に1回しか開かれないのならその規模はい

らないなど言えるはず。

内村委員

- ・コンベンションを専門に扱っている団体があるので、そこでそれらのことは分かると思うので、それらの数値については次回までに調べたい。

河内委員

- ・以前に市がコンベンションを立ち上げるときに調べたはずだが、そのときは需要がないので建てても赤字になるからだめだと言っていたが。

古川委員

- ・赤字の議論になると作ること自体が難しくなると思う。これは図書館と同じで、いくらその運営に赤字になろうともそれ以上に函館にお金が落ちればいいんだというような考えに立たないといけない。

河内委員

- ・水族館のことを悪く言うわけではないが、同じ1億の赤字を出すのであれば、落ちるお金のことを考えればコンベンションの方が必要だと思うが。

古川委員

- ・いやそれは優先度の問題だ。具体的資料がそろい理論構築をして、水族館よりこちらが先に必要だというようなものができればいいと思う。

番匠委員

- ・水族館は日帰りするが、コンベンションは1泊する。落ちるお金が違う。

内村委員

- ・コンベンション施設に新たな設備が加われば新たな文化が生まれると思う。市民文化型を新たに加えれば地域の活性化にもなると思う。歌手にしてもグレードが高いものが付設されればくるようになるかも知れない・・・。

二本柳委員

- ・アーティストというのは飛行機の移動を時間が読めないために嫌がる。それで

一流になればなるほど新幹線が通っているところしか行かない。

- ・ そうなると何年か後に新幹線が来るとなれば，そういうものも見込めると思う。札幌で特に冬場にそういうコンサートが組めないのは，飛行機が全く読めないからだ。いけるかどうか分からないし，次の日の移動も不確定になる。
- ・ 箱物はだめだと云うがある程度のものは必要だと思う。

星野部会長

- ・ これは競争だから，函館になくてよそにどんどん新しいのができている。コンベンションを受け入れる体制とか熱意とか人員とかが必要で，作ったとしてもその体制が必要だと思う。
- ・ それら情報も含めて，マネジメントする力が函館は他の地域に比べて整っていないと思う。

二本柳委員

- ・ 未来大学が連合で作ったのだから，これもそのようにはできないだろうか。

(難しい・・・)

星野部会長

- ・ 時間も時間ですし，続きは次回と言うことで・・・。

(5) 閉 会